

## ADHD の彼の話

当時A市内にあった当フォーラムの正会員教室で、初めて彼に会った。会ったと言っても、彼は始終机の下に隠れたり、隣の教室に行ったり、書庫の中を探したり、私と向かい合うことは一度もなかった。明らかに ADHD（注意欠陥・多動性障害）の小学3年の児童だった。

父親は大証1部上場会社の技師、母親は保健師で、3歳上の兄がいた。私はまずは彼が何に興味があるか探した。しかし、彼に話しかけても、こちらをちらっと見ても返事をしてくれない。教室のあちこちを動き回る。分からない。1か月後の4月初旬に行われた「豪州・ペンリス市春の大自然交流合宿」でのジャミソントウン小学校の玄関での集合写真でも、彼が集合写真に入るように、私は彼を後ろからがっちり抱え込んで撮ってもらった。彼は一時もじっとしていなかった。

それでも彼は、そのオーストラリアでの交流合宿（4泊5日）も、その後の夏の長野県八ヶ岳での交流合宿も、冬のふじてんスノーボー交流合宿（共に2泊3日）も積極的に参加してくれた。ご両親もそれをサポートしてくれた。交流合宿を手伝ってくれる大学生や社会人のリーダー達には、彼に積極的に声を掛け、集団行動にも誘い、常に「楽しいねえ、よかったねえ、できたねえ」などと話しかけるようお願いした。その甲斐があつてか、彼は Buddy（オーストラリアのペア）との日本の伝統遊びや送別会の合唱、八ヶ岳ハイキングや英語版「だるまさんが転んだ」、スノーボーやガラス工芸などに、みんなと楽しく参加した。

そんな折1年半後の夏の沖縄・座間味交流合宿（3泊4日）初日、夜のリーダー会議で今日一日の様子を収録したビデオ映像を振り返っていた時、リーダーの一人が「あれ！、〇〇（彼の名前）が、開村式の間ずーっとベンチに座って、村長さんやリーダー達の話の聞いているよー！全然動き回っていない！」と叫んだ。みんな、びっくりして映像を巻き戻した。確かに彼は時折足をばたつかせることはあっても、じっと村長さんやリーダー達の挨拶を聞いていた。彼と初めて会ったことを考えれば、信じられない光景だった。

翌朝彼にそのことを話すと、「リーダー達がボクによく僕に話しかけてくれるし、ボクの話も聞いてくれる。やっぱ、人の話はしっかり聞かなくてはと思ったから」と言う。私は彼を褒めた。嬉しそうな笑顔を浮かべた。これまで彼と一緒に様々な活動に参加してくれたリーダー達に感謝した。

その交流合宿の3日目の午後、村祭りに子ども達が招待された。子ども達とリーダー達は、花火や盆踊りや出店（もちろんすべて無料）を楽しんだ。夕方、彼はにこにこしながら、スイカ大の新聞紙の包みを抱えて帰ってきた。聞くと、丸焼きした豚の頭蓋骨だと言う。おじさんに、ほしいって言ったらくれたと言う。「そう！よかったねー」と返した。

その交流合宿が終わって10日過ぎた頃、彼のお母さんから驚いた声で電話があった。「せんせいー！わたしや一腰を抜かしました！合宿から帰ってきてから、お土産と着替え

た物を出したものの、旅行カバンはそのまま部屋に置きっぱなし。今日彼が学校に行った後、しょうがないなあ、部屋の掃除をしてあげようと部屋に入り、旅行カバンも開けたら、何やら焼けた匂いがする新聞の包みが。???と思って開けたら、わたし、腰が抜けました。なんと、ブタのず・が・い・こ・つ！せんせいー！知ってましたー？」と。

「はい。彼に、帰ったら、親に座間味のおじさんにもらったと説明しなよって言っただけ、言わなかったんですね。座間味の村の夏祭りで、焼いてみんなに振る舞ったもので、よーく焼いてあったと思います。」

「はい、確かにきれいに始末してありましたが。〇〇〇がこんなものを欲しがったんですね。そ、そういえば、先生。学校の先生が、1学期の終わりの三者面談で、この頃は〇〇〇が、授業中座ってしっかり勉強してますよって言ってました。少しびっくりしましたが、確かに、この頃は親の話も落ち着いて聞いているなって気づきました。ありがとうございました！」

「いやいや、それはお父さんお母さんが毎回毎回、私達の活動に〇〇〇君を参加させてくれたお陰だと思いますよ。」と返した。

その後も、3回の「豪州・ペンリス市春の大自然交流合宿」に、夏の八ヶ岳、北海道釧路湿原の交流合宿、冬のスノーボー交流合宿と、彼が小学校を卒業するまで私達の交流合宿に参加し、中高一貫校に進学。今は大学生になって、学友と楽しく学生生活を楽しんでいる。

大人になるにつれ、多動はおさまるが、脳の機能障害そのものを根本的に治す方法は無い【「図解よくわかる ADHD」榊原洋一著、ナツメ社】と言われる ADHD。その医学的根拠は分からないが、私達のこうした活動が彼にはいい効果を与えたようである。

2020年8月8日